

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会における審議及び各専門部会の活動の推進により、学校支援ボランティア等、地域住民や保護者、関係機関の積極的な教育への参画を促す。 いじめに関するアンケートを定期的(年3回)にとり、その後に教育相談、いじめ防止対策推進会議を実施し、地域や保護者とも連携を図りながら、いじめの防止、及び、いじめの早期発見・早期対応を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会等を通じて、地域や家庭の意見を反映しながら学校支援ボランティアや地域の方々の連携した活動を仕組み、学校運営ができた。(達成状況92%) 3年ぶりにありがとうの会を実施し、ボランティアの登録者や地域の方へ感謝の気持ちを児童から伝えることができた。 いじめ事案については、担任、教務(いじめ対策監)、生徒指導、教頭、校長が連携し、被害を受けた児童や保護者に寄り添いながら迅速に対応できた。(達成状況95%) 	<ul style="list-style-type: none"> CSの活動において、親子で体育館前通路に並べるすのこ作りを実施したことで、美しい環境が整った。来年度に残り半分を制作することで、さらに整備できるとよい。 年2回のいじめ対策委員会において、取り組みの報告から現状を知ることで、いじめ防止等の指導や対応について、理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後チャイルドコミュニティの理解を求め、実施に向けて具体的な協議を進める。 安全支援ボランティアを募集することで、安全面においても参画を促す。 見守りボランティアの登録者数が年々減っているため、募集により新規登録者数を増やす。 今後も年3回のアンケートや教育相談等を実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等において、地域の施設や人材を活用した教育活動を工夫する。また、地域や家庭への情報発信を継続し、学校の現状を理解してもらうよう努める。 授業中の教師の指導や児童の学習において、タブレット端末を効果的に活用できるように、指導や活用の仕方を工夫する。また、英語科の授業において、学んだことを生活に繋いだり生かしたりすることができるような学習内容や活動の工夫を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や生活科の学習等、全学年において、地域の施設や人材を活用した体験的な活動を展開できた。 行事や活動後は、HPやTeams、スマート連絡帳、通信等で家庭や地域に様子を発信することができた。(達成状況86%) また、教育公開日には、CSの委員に授業を参観してもらい、様子を直接知らせた。(達成状況86%) ALTと連携し、英語の授業改善や、コミュニケーション力をアップするために日常においても英語で話す機会をもつような取り組みを工夫して実践した。(達成状況88%) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中でもできることを考え、保護者の学習支援をボランティアで募集して、実施してきたことはよかった。 授業参観の制限やHPの掲載が少ないため、保護者の知る機会が少ない。 ICT機器やタブレット端末を活用した分かりやすい授業を展開してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ、学校の活動を紹介するHPの掲載が少なく、家庭や地域への発信力が弱かったため、週1回を目安にHPの掲載を行う。 岐阜市「ぎふMIRAS」の取り組みに対して地域の施設や人材の活用をさらに工夫する。 タブレット端末を用いた授業について積極的に研修し、分かりやすい授業作りを行う。 日課の変更に伴い生じた時間を研修や自己研鑽の時間に用いるなど、授業改善につながる取り組みを効果的・積極的に行う。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 入学前や前年度の引き継ぎ内容等を生かし、保護者や医療・福祉機関と連携しながら、継続的な支援にあたる。また、引継ぎを確実に行うようにする。 中学校区において情報を交流し、共通理解を図る。また、主任いじめ対策監と連携し、児童・生徒理解や指導の方向にずれがないか助言をもとに指導にあたる。CSの仕組みを活用し、幼・中の関係者から意見を聞いたり、学校支援ボランティア等、地域の人材を活用した取り組みを引き続き行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小の連携協議会を実施し、1年児童について授業参観の場を設けたり、2園の保育参観や研究会に参加し、幼児期における遊びの中の学びについて理解を深めたりすることができた。 幼児支援教室の引き継ぎ内容を担任に伝え、特性に応じた支援に生かすことができた。 主任いじめ対策監から、学習や活動時における児童の行動の意味や価値を知らせてもらい、全職員で共有することで、職員の児童理解が深まり、指導の方向性を確認することができた。(達成状況95%) 	<ul style="list-style-type: none"> 11月の教育公開では、コロナ禍の2年前の様子に比べ、低学年児童が落ち着いて学習していた。今後も必要時は、保護者と懇談して様子を知らせるなどして連携し、児童の支援にあたってほしい。 中学校とは、挨拶や清掃活動でもつながりがある。今後も連携して教育活動を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小の連絡会を毎年実施する。できれば、早い時期に実施することで、今後を見据えた活動に繋いでいきたい。 見守りボランティアの地図の作成により、地域人材を掲示で位置づけるとともに、児童や保護者が地域の人々との繋がりを感ぜられるようする。
教育環境と学校財務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の定期的点検の結果に対し、適切な対処(修理・修繕等)を迅速に行い、安全な環境を整備する。 児童が集中できるようUD化を意識した教室環境や児童のよさ・頑張りを感じる校内環境を整備する。また、児童作品などを定期的に入れ替えて「動きのある生きた掲示」にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校務員や事務職員と連携し、修繕箇所の迅速な対応ができた。とくに、校門に案内板を設置し入り口や受付を明示したことは、外部への抑止力にもなり、日常の安全確保に繋がった。(達成状況98%) 児童の作品を定期的に入れ替え、児童が自分の頑張りを確認したり、良さを広める場となったりした。物の廃棄や整理に努め、使い易い環境を整えることができた。(達成状況92%) 	<ul style="list-style-type: none"> 南舎1階廊下の掲示板にライトがつき、児童の頑張りや良さを伝える「スマイルカード」が見やすくなった。校門の落書きは心配したが、その後は何事も無かったことがよい。今後も安全な環境で活動できるように環境整備に努めてほしい。 児童の作品だけでなく、地域とのつながりが分かる掲示が残されているのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検からの修理や修繕を進め、より安全な環境を今後も整備していく。 UD化は、職員会提案後の実施状況を確認し、良さを共有し合うことで、誰もがよりよく学習生活を過ごすことのできる環境づくりを促進する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルをもとに、起こりうる多種多様な場面を想定した「命を守る訓練」を計画・実践し、自ら考え行動できる力を身に付けるようにする。 地域と協働し、災害・事案に対応する登下校の態勢を整備し、地域防災学習を進めながら、迅速に行動できる体制を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 垂直避難訓練を初めて実施し、水難に対しても避難の仕方や確認・報告の仕方を確かめることができた。(達成状況95%) 市や地域の方と連携して、高学年を対象に、避難所の話を聞いたり実際にテントを張ったりして、防災学習に取り組むことができた。 関係機関と連携し、通学路点検を実施し、危険箇所を確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年を対象にした避難時のテント設営や防災備蓄倉庫内の確認を継続的に実施し、地域防災に関心がもてることよい。 通学路でない道で登下校する児童がいる。もしもの時の安全確保の為に通学路があることを保護者に周知したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直避難訓練の課題から計画を見直す。 5学年の総合的な学習の時間を防災学習に変え、地域防災について体験を入れながら地域と連携して取り組み、自ら判断して考え行動できる力を養う。 通学路やこども100番が分かる校区の地図を配付し、周知する。